

平成29年度 農山漁村振興交付金(山村活性化対策)
事業実施主体 評価結果

1. 事業評価の実施

平成29年度に実施された農山漁村振興交付金(山村活性化対策)の事業について、「農山漁村振興交付金実施要領」(平成28年4月1日付け27農振第2326号農林水産省農村振興局長通知)別紙3の第7の1の規定に基づき、評価を行ったので、その結果を公表する。

2. 評価結果

都道府県	市 町 村	事業実施主体名	事業実施段階			評価	評 価 コ メ ン ト
			H29	H30	H31		
山形県	小国町	小国町	●			A	事業期間が短い中、関係団体と連携し、住民を巻き込みながら、積極的な事業展開がなされている。 平成32年度の数値目標達成のための着実な取組が行われている。

(注1)「事業実施段階」の凡例： ○…交付対象年度(計画) ●…交付対象年度(実施済) □…目標年度(計画) ■…目標年度(実施済)

(注2)「評価」の区分： A…優良 B…良好 C…低調

3. 第三者の意見聴取

農山漁村振興交付金実施要領別紙3の第7の1の規定に基づき、第三者である下記の者から評価に当たり意見の聴取を行った。第三者及び意見聴取の概要は以下のとおり。

【第三者】

兵庫県立大学大学院経営研究科 客員教授 勝瀬典雄、山形銀行 小国支店長 長沢伸一、山形中央信用組合 小国支店長 竹田淳

【意見聴取の概要】

平成30年5月16日に評価委員会を開催し、事業実施主体から、事業計画、事業実績を説明し、意見の聴取を行った。

農山漁村振興交付金(山村活性化対策) 評価シート

1. 事業実施主体(評価者)	小国町	事業開始年度	目標年度	事業実施期間
2. 取組振興山村名	小国町	平成29年度	平成32年度	平成29年10月25日～平成30年3月30日
3. 事業費(うち国費)	2, 697, 482円(2, 628, 000円)			
4. 第三者氏名	兵庫県立大学大学院経営研究科 客員教授 勝瀬典雄、山形銀行 小国支店長 長沢伸一、山形中央信用組合 小国支店長 竹田淳			
5. 事業評価				
総合評価				
○ 取組の実施状況や目標の達成に必要な取組が十分に行われたか。 (①から④までを踏まえた総合的な評価)		(評価理由及び助言等のコメント)		
評価 (該当に○)	(A) (B) (C) 重点指導対象	○事業期間が短い中、関係団体と連携し、住民を巻き込みながら、積極的な事業展開がなされている。 ○平成32年度の数値目標達成のための着実な取組が行われている。		
① 取組状況				
○ 目標の達成に資するのための取組が行われたか。		(評価理由及び助言等のコメント)		
評価 (該当に○)	(A) (B) (C) 重点指導対象	○地域内外での積極的なPRや、販路拡大を見据えたマーケティングが行われており、次年度以降に取り組むべき課題も見えてきており、今後の展開に期待したい。		
② 事業実績				
○ 事業実施計画の目標は達成できているか。		(評価理由及び助言等のコメント)		
評価 (該当に○)	(A) (B) (C) 重点指導対象	○数値目標を達成するために必要なアクションプランが整理できるだけの成果を得た。		
③ 実施体制				
○ 事業実施主体の取組体制は十分に機能したか。		(評価理由及び助言等のコメント)		
評価 (該当に○)	(A) (B) (C)	○町が主体ではあるが、関係団体や地域住民も含め、延べ207名の参加者を得るなど十分機能した体制的で事業が実施されている。		
④ その他				
事業実施状況や成果が十分に町民に伝わっていないことから、積極的にPRしてほしい。				

※複数名の学識経験者等第三者から意見聴取している場合、第三者間で調整した意見結果を記載する。

学識経験者等第三者について

小国町

1. 第三者の氏名、住所 ① 氏名： 勝瀬 典雄(かつせ ふみお) 長沢 伸一(ながさわ しんいち) 竹田 淳(たけだ あつし) ② 住所： 東京都杉並区桃井1丁目27-11-301 山形県小国町大字小国町字町北壱158番地 山形県小国町大字岩井沢840番地	3. 第三者の経歴 勝瀬 典雄(かつせ ふみお) H23.4～ 兵庫県立大学 大学院 経営研究科 客員教授 H26.6～ 農林水産省 6次産業化中央サポートセンター プランナー 資格等 情報処理技術者 ITコーディネータインストラクター 長沢 伸一(ながさわ しんいち) H30.2～ 山形銀行小国支店 支店長 H26.10～ 山形銀行東青田支店 支店長 H21.10～ 山形銀行米沢支店 次長 竹田 淳(たけだ あつし) H30.4～ 山形中央信用組合小国支店 支店長 山形中央信用組合本店営業部 次長 山形中央信用組合寒河江支店 次長 H9.4～ 山形中央信用組合入組 資格等 山形大学認定 産学金連携シニアコーディネーター
2. 第三者に選定した理由 勝瀬 典雄(かつせ ふみお) 国6次産業化中央サポートセンターにおける6次産業化プランナーとして、近年の本町における6次産業化に関する各種事業に関与しており、現状を熟知している。 専門家ならではの知識や知見を有しており、事業の進め方や効果などについて、適切な評価とアドバイスが得られる。 長沢 伸一(ながさわ しんいち) 本町に所在する金融機関である山形銀行小国支店の支店長。 地元に密着した金融機関であり、地域の経済状況を熟知している。金融機関ならではの目線で、事業の効率性や採算性を評価することができる。 竹田 淳(たけだ あつし) 本町に所在する金融機関である山形中央信用組合小国支店の支店長。 地元に密着した金融機関であり、特に地域の商工業者の現状を熟知している。金融機関ならではの目線で、事業の効率性や採算性を評価することができる。	

平成29年度	事業開始 1年目	山形県西置賜郡小国町	小 国 町
--------	-------------	------------	-------

農山漁村振興交付金（山村活性化対策）

○事業の実施状況

＜先進地地域ブランド調査事業＞ 2回 魚津市、西和賀町 ◎主な概要 西和賀町視察 日 時：平成30年2月20日（土） ～11日（日） 視察先：岩手県西和賀町 参加者：白い森まるごとブランドPJ7名 内 容：2015年より、町内事業者とデザイナー、地元金融機関が連携して西和賀デザインプロジェクト「ユキノチカラ」を展開し、山菜の魅力ある商品づくりをすすめている。 結 果：西和賀町には大きな企業もなく、農産物に付加価値をつけようということ地域資源である「西わらび」をブランド化して売り出してきた。このほか、冬の厳しい寒さの中で熟成させた大根の一本漬け、湯田牛乳、納豆汁などの特産品がある。  	＜地域ブランド戦略検討事業＞ 4回 白い森まるごと塾3回、山村活性化研修 ◎主な概要 白い森まるごと塾（Vol.2） 「OGUNI・de・フレンチ」 日 時：平成29年12月11日（月） ＜第1部＞ 「小国食材を使ったフレンチレシピ講座」 ＜第2部＞ 「小国食材を使ったカジュアルフレンチ」 会 場：道の駅 あいあい 講 師：Bistro COLORIS オーナーシェフ 川瀬 彩 氏 内 容：＜第1部＞小国の食材を使ったおもてなし料理教室＜第2部＞小国の食材を使ったフランス料理の実演 参加者：＜第1部＞ 23名 ＜第2部＞ 42名 結 果：＜第1部＞第1部のフレンチレシピ講座については、町内飲食店等からも参加いただき、きのこや雑穀といった小国の食材を用いたフレンチの調理法を学んだ。写真や動画を撮影する参加者も多く、熱心に取り組んでいたいただいたものと感じた。＜第2部＞会場のセッティングや配膳する従業員のエプロン等にもシェフからアドバイスいただき、フレンチにふさわしい雰囲気をつくることができた。  	＜地域ブランドプロモーション事業＞ 6回 小国町内2回、東京、新潟、仙台 ◎主な概要 若葉台交流 日 時：平成29年11月3日（金） 会 場：東京都稲城市若葉台ファインストリア 参加者：おぐにまるごと農商工NW協議会員2名、白い森PJ1名、白い森ブランド戦略室4名 内 容：山菜中華まん、雑穀中華まんの試食、アンケートのこ料理（きのこスティック）の試食、アンケート、山菜、米、きのこ、雑穀関連商品の販売、菌床しいたけの展示、山形芋煮の振る舞い、観光パンフ等チラシの配布による白い森の国おぐにのPR、若葉台マンション管理組合との交流、協議 結 果：しいたけスティックの試食もあり、肉厚の大振りなしいたけは好評であったため、展示や試食など、実際に目にしてもらうことが新規購入につながるものと思われる。山菜やきのこの食べ方に関する質問もあったため、白い森のイメージにあったデザイン性のあるレシピ集の作成についても検討したい。ネット販売や通信販売などがより充実するよう、支援策について検討したい。  	＜特産品ブランドプロジェクト事業＞ 米袋の作成、中華まんのぼり旗製作、アルバイト雇用 ◎主な概要 米袋、のぼり旗製作 内 容：白い森ロゴマーク、やくみつるデザイン「むすびの一番」の2種類の米袋製作及び山菜、雑穀中華まんについて、それぞれ2種類ののぼり旗製作 結 果：米袋は、現在試験販売中。取り扱っている直売所からは、これまで以上に売れ行きは好調。また、のぼり旗についても、中華まんの試食や試験販売の段階では、注目を集めることができた。   
---	--	---	--

○今後の事業構想

- ・地域ブランド検討事業については、前年実施した試食会結果を踏まえ、随時、新しく改良、開発した加工品や名物料理等を年次的、段階的に町民参加の試食会や講演会を行い、若者・女性など新規顧客へ客層を拡大させるなど、特産品の地域ブランドづくりに向けて住民の関心や意欲を高め、ブランドづくりの過程を住民とともに共有していく。
- ・地域ブランドプロモーション事業については、地域内外のイベントに継続出展し、山菜やきのこ、米や雑穀の新しい料理や加工品を出展・PRし、試食やアンケート等を実施する。また、手間がかからず調理できるような商品や調理方法とあわせ、ブランドイメージのPRやアンケートも行う。また、前年に引き続き特定の取引先として期待される東京若葉台のマンション管理組合の秋のイベントに出展し、小国の山菜やきのこ、米や雑穀のPRを行いながら、今後の交流事業の展開方法や、長期的な農産物の取引のしくみづくりについて、管理組合と進め方を確認する。
- ・特産品ブランドプロジェクト事業については、前年度着手したおもてなし料理の開発を継続するとともに、既存商品の改良やお土産品等（お土産品や小国特産ギフトセット、小国特産おもてなし弁当）の開発に関するノウハウや技術指導について、専門業者に業務委託を行い、企画提案を受けながら、商品開発を進める。また、これら開発した商品の町内流通のしくみづくりの企画・提案を行う。（道の駅、町内交流施設、農村レストラン、町内飲食店）